



3月定例会

守岡ひとし議員

緊急通報システム、生成AIについて一般質問

センサー対応型の

緊急通報システムを

現在、上山市には65歳以上のうち一人暮らしの方が約1500人、老々世帯の方も約1500組います。何かあった場合どうしたらいいのか、大きな不安を抱えています。

こうした中、本市では緊急通報システムのサービスが実施されています。これは一人暮らしの方が緊急時にペーダント型のボタンを押すと、警備会社に電話がつながり救助を求めることができるというものです。

一人暮らし高齢者の方にとって一定安心感が得られるサービスですが、利用実績が少ない状況になっています。その要因としては、ペーダント型ではあるものの常時身につけておくのがわずらわしく、いざというときには手元がないという使い勝手の悪さの問題があります。また、対象が市民税非課税世帯に限定されているために、多くの高齢者が制度の対象外になっているという問題もあります。

こうしたことから守岡議員は、センサーによって一人暮らし高齢者の異常を検出する「生活リズム異常検出センサー対応機器」の導入と、緊急通報システムの利用対象者について、所得制限を撤廃し希望する方全員が利用できるようにすることを提案しました。

市長は「ご提案のあった機器を含め、利用者のニーズや利便性等を踏まえたうえで、効果的な活用に向けて調査・研究してまいります。所得制限の撤廃については、他事業との公平性と応能負担の観点から、所得制限を撤廃する考えはありません」と答えました。

業務改善に向け生成AIの導入と

安全な使いこなしを

生成AIとは、人間の求めに応じて文章や画像を自動的に作成してくれるAI（人工知能）のことです。インターネット上の膨大なデータを処理するもので、人類に残る画期的な発明になると予想されます。生成AI導入による自治体の業務改善と、今後予想されるリスク（危険性）の回避に向けた提案を行いました。

1. 市民サービスの強化

市民からの問い合わせや要望に即対応できるようになります。

2. 市民参加の促進

市民との対話型プラットフォームにより、市民が市政に関する意見や提案を簡単に発信できる環境が整備されます。

3. 行政情報の提供

市の施設やサービス、イベントなどに関する情報を効果的に伝えることができます。

4. 業務の自動化

様々な業務や対応が自動化され、市の職員はより重要な業務に集中できるようになり、効率と生産性が向上します。

生成AIは蓄積された膨大なデータを活用してテキストが作成されますが、個人情報や機密情報を入力すると無限大に拡散され、削除することは不可能になります。また、犯罪などに悪用されるリスクもあり、十分注意して使用する必要があります。

業務改善に向けた生成AI導入とリスクマネジメントの検討を提案し、さらに教育現場においても、AIを適切・安全に使いこなすリテラシー教育の実施を提案しました。

市長は「業務改善や市民サービス強化等を図るうえで、生成AIは有効な手段になり得るものと考えております。一方、導入にあたっては、情報漏洩や誤った情報の生成等のリスクを踏まえ、禁止事項並びに利用範囲及び目的等を示した運用ルールの制定に加え、生成AIを使いこなすことができる高いセキュリティ意識及び倫理観及びスキルを持つ職員を育成する必要があります。導入の判断、リスクマネジメント検討のため、DX推進アドバイザーの知見や協力も得ながら、生成AIの活用に適した業務や導入事例の研究等を今後進めてまいります」と答え、教育長も「教育現場においてAIを適切・安全に使いこなすリテラシー教育は大変重要です。文部科学省等が作成を予定しているAIの教育現場での利用に関するガイドラインに基づき、適切・安全に使いこなすリテラシー教育を実施してまいります」と答えました。

生成AIの導入でこんなことが可能に

- 市のホームページ・LINEなどの自動作成
- 提案書や資料、議事録の作成
- 誤字、脱字の確認
- 政策立案やアイデア創出
- 観光商品の開発
- 市民の相談に対する対面
オンラインでの自動応答

などなど…。

